日本OECD共同研究
OECD能登スクールプロジェクト

学校は社会の未来図

対話でつなぐ、能登半島の創造的復興と未来の学校

2024年8月19日(月)～21日(水)
国立能登青少年交流の家・石川県立輪島高等学校

何色の明日を迎えに行く?

大変な体験をして、いろんな気持ちを知りました。

やっと言えたことも、まだ言えずにいることもあります。

暗いままだと思っていたのに、ふと明るくなって、また暗くなって、

そんな繰り返しの先に、次の一日も続いているのでしょうか。

同じ体験から生まれた、同じじゃない思い。

それぞれ異なる色を持って、どれとどれが混ざったら、

どんな明日が待っているのだろう。

一緒に考えたい。

「私たちは、何色の明日を迎えに行きますか?」

メッセージ

大凶	運勢

タイムリミットはあと数時間、あなたの街が消えるまで。家族も家も何もかも、あとかたすらなくなる。すぐに逃げろ、全てを棄てて、そう命が惜しければ。たとえば初詣のおみくじにこんなことが書かれていたら、あなたはどう思いますか？

でもこれが現実に起こった。あの日を境に私たちの暮らしは一変しました。街はあの日のまま、時が止まっています。何度も前を向こうとして、でもどうしようもなく立ち止まって、それでも歯をくいしばって、笑いたくなくても無理に笑おうとして、やり場のない悲しみにうちひしがれても、それでも今こうして生きていられるのは、同じような辛い思いをしながらも、それでも立ち上がってきたあなたの後ろ姿があるからです。

能登半島へようこそ

私たちは誰にも経験できないような深い悲しみを味わいました。だけど、誰にも経験できないような大きなしあわせにも巡り会うことができました。そのひとつがみなさんと過ごすこの時間です。

自分の力ではどうすることもできない目に見えない大きな力に対して私たちはあまりにも無力でした。それでも、過去の多くの方がご自分の命と引き替えに残してくださった大切な教訓と、悲しみを生きぬいた方々が次々と差し伸べてくださるあたたかい手のおかげで、こうして生き延びているのです。次にどこかで何かが起こったときに、自分たちにどんな「恩送り」ができるのか、しっかりと考える機会にしたいと考えます。

朝目が覚めると、絶望の縁にいることを改めて思い知らされる毎日です。今から始まるこの一日は、自分にとってはどうってことない一日のような気がするけど、瓦礫に押しつぶされ迫り来る炎に怯えながら命を落とされた方にとっては、どうしても生きたかったはずの一日なのです。そう思うと、つらいと思えることさえも、それこそが生きていることの証であり、かけがえのない尊いにものに思えてきます。さあ、懐かしい匂いのする未来への旅立ちです。

石川県立輪島高等学校
校長　平野 敏

2024年1月1日16時10分、
石川県能登地方で
マグニチュード7.6・深さ16kmの地震が発生。
後にその名称は「令和6年 能登半島地震」と
定められました。

能登スクールプロジェクトとは?

日本OECD共同研究 OECD能登スクールプロジェクト（以降「能登スクール」と記載）は、
能登半島地震を発端として開催されました。日本全国から能登半島に集まった約60名と
石川県立輪島高等学校（以降「輪島高校」と記載）の教職員と生徒が、
対話を通じで、能登半島の創造的復興を目指します。

目的

能登半島地震の発災からおおよそ半年後に、能登スクールは開催されました。
被災地域や被災者の物理的復旧すらままならない時期に、なぜ能登スクールが開催されたのか?
それは、同じ想いを繋ぎ、より新しくより良い未来を紡ぐためでした。
創造的復興には、従来の復興政策に関わる方々の力に加えて、若者のチカラやよそ者のチカラも必要と言われます。
東日本大震災の時に中高生だった者、復旧・復興を支えた者、影響を受け者など、
日本全国から、能登半島地震により被災した生徒と教師に想いを馳せたメンバーが集まりました。
年齢も立場も異なるメンバーが、空間や時間を共有し、対話を通じて学び合い、
能登半島の創造的復興に活かすことを目指しました。

コンセプト

過去・現在・未来への旅と自分の色

より良い未来を描くために過去の教訓から学ぶ、けれど、過去の成功にとらわれない。
現在の自分自身と地域を見つめる。
自分の軸を持ちながら、能登半島のあってほしい未来の姿を考えられるようにと思いを込めたコンセプトです。
そして更に、時代も地域も超える旅の中で、支援する側・される側、大人・子ども、能登の人・外の人など、
二項対立で「ひと」を分断せず、互いの色や個性を尊重し、
それぞれ属性が異なるからこそ生まれる新しい見方・考え方を活かしながら、共創する旅を目指しました。

創造的復興を目指す能登スクールで実践したキーワード

主体性｜Agency

新しい歴史を紡ぐ主体　新たな歴史を紡ぐ当事者として、自ら課題を発見し、解決プロセスに意味や意義を見出しながら価値をつけることや、自己効力感を持って周囲に働きかけ、振り返りながら責任を持った判断や選択を繰り返すことで、未来を変えることができると考えます。

新しい未来をつくる主体　創造的復興の主体となるには、どの国・地域でも、失敗を恐れず、あらゆる課題に果敢に挑むチャレンジ精神、そして、失敗から謙虚に学ぶ姿勢も欠かせないと言われています。

心理的な安全と信頼｜Psychological Safety and Trust

本音で言い合える関係性が不可欠であるため、コミュニケーションの目線合わせを行うことで、ありのままの自分や自分ならではの考えを臆することなく表現できる場・関係性の構築に工夫を凝らしました。

居場所の柔軟性｜Flexibility in Sense of Belonging

長期化する創造的復興の過程と向き合い続けるためには内発的な動機づけが欠かせないため、かつ、復興疲れを防ぐセルフケアのため、他者に与えられた目的ではなく自ら目的を見出す**余白の時間やあそびの時間**を十分に確保しました。

自分への理解と価値づけ｜Self-Understanding and Self-Worth

復興過程では、他者のための自己犠牲が頻発します。**自分軸を持つことで、自己肯定感・自己効用感が生まれ、他者にも思いやりを持って接することができる**ため、まずは自分が好きなこと・嫌いなこと、求めるもの・受け付けないものなど、自分自身を知ることで、自分だけの感性への気づきと価値づけを後押ししました。

違いの尊重｜Respect for Differences

多様な見方・考え方や、異なるバックグラウンドやアイデンティティを持つ人々を受け入れることで、相互の違いについて話し合い、見つめ、受容する機会をつくりました。

他者への共感｜Empathy for Others

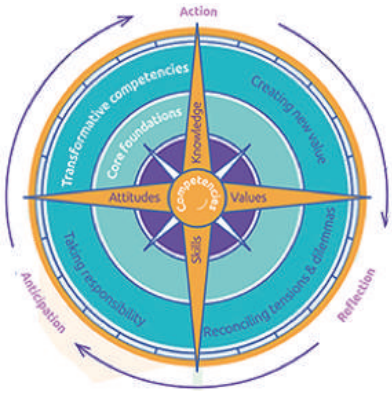
自分とは異なる立場の異なる経験に触れる時間を通して「もしも、○○が自分の身に起こったら？」と想像力を働かせ、それまで持ち得ていなかった視点に立ち、復興を**対岸の火事でなく当事者・共事者意識で捉え直す**ようにしました。

共創｜Co-Creation

創造的復興はひとりでは成し遂げられません。**丁寧な対話を通して、異なる意見や視点の長所・短所を建設的に批判・整理する**ことが重要です。意見は違えど人格は否定せず、課題解決に向けた最適解をみんなで見つけ出せるよう、**意思表明や合意形成**の場面をちりばめました。

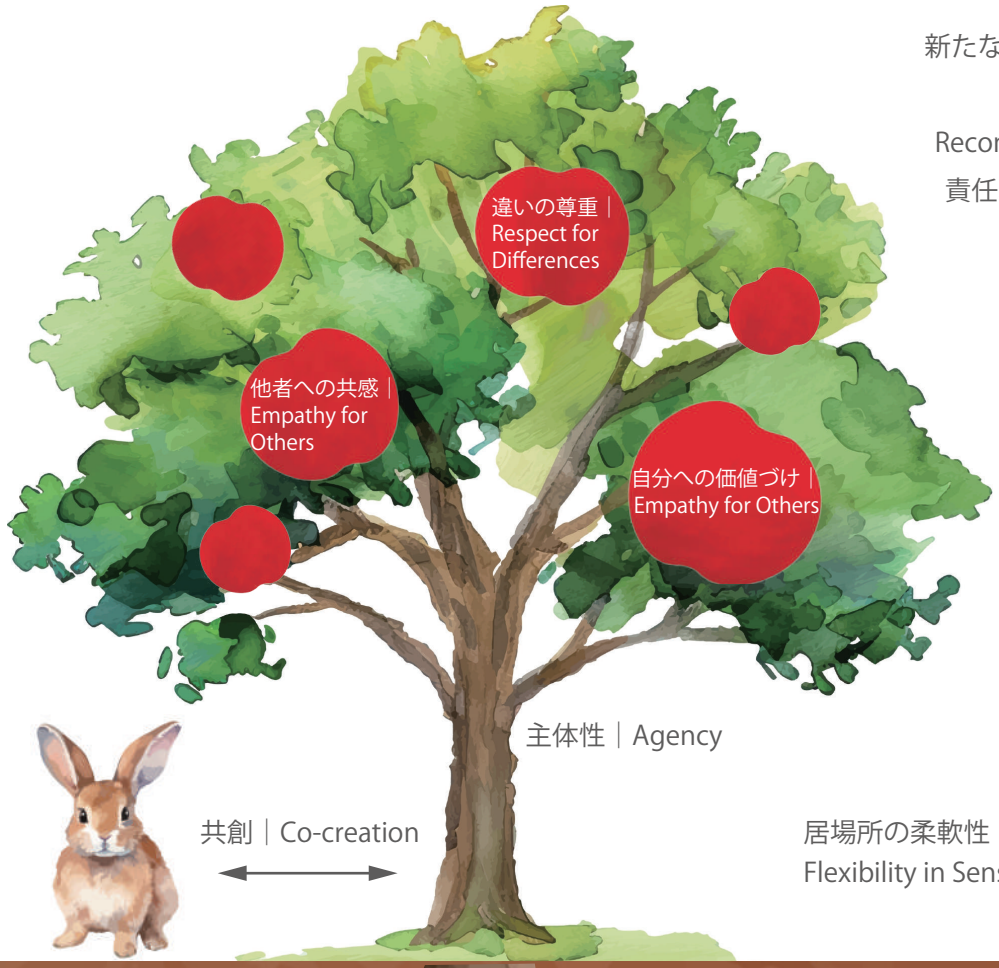
OECDラーニングコンパス2030との連携

心理的な安全と信頼｜
Psychological Safety and Trust



変革を起こす力のあるコンピテンシー
子どもたちが世界に貢献しながら成功し、
より良い未来をつくりだすために必要な要素

新たな価値の創造｜Creating New Value
対立やジレンマへの対処｜
Reconciling Tensions and Dilemmas
責任ある行動｜Taking Responsibility



心理的な安全と信頼｜
Psychological Safety and Trust

主体性｜Agency

共創｜Co-creation

居場所の柔軟性｜
Flexibility in Sense of Belonging

自分への理解｜
Self-Understanding

心理的な安全と信頼｜
Psychological Safety and Trust

主体性｜Agency

新しい歴史を紡ぐ主体　新たな歴史を紡ぐ当事者として、自ら課題を発見し、解決プロセスに意味や意義を見出しながら価値をつけることや、自己効力感を持って周囲に働きかけ、振り返りながら責任を持った判断や選択を繰り返すことで、未来を変えることができると考えます。

新しい未来をつくる主体　創造的復興の主体となるには、どの国・地域でも、失敗を恐れず、あらゆる課題に果敢に挑むチャレンジ精神、そして、失敗から謙虚に学ぶ姿勢も欠かせないと言われています。

生徒主体のプログラム設計と運営

大人が子どもに教える、大人が考えた教育を現場に反映し子どもが学ぶなど、これまでのトップダウン型教育プログラムとは異なり、生徒が主体となり大人を巻き込む形で能登スクールのプログラムを設計しました。地域に根ざしたプログラムになるよう価値を高め、輪島高校職員と定期的にコミュニケーションを取りながら準備し、当日はプログラム進行からワークショップの管理まで生徒が行いました。

心理的な安全と信頼｜ Psychological Safety and Trust

本音で言い合える関係性が不可欠であるため、コミュニケーションの目線合わせを行うことで、ありのままの自分や自分ならではの考えを臆することなく表現できる場・関係性の構築に工夫を凝らしました。

対話のるーる

安心できる空間をつくるために、対話で気をつけるべきルールを事前に設定し、参加者の心得として、プロジェクト冒頭に全体に共有しました。

みんなのるーる

・耳を澄まして聴く
・沈黙を歓迎する
・立場や年齢にこだわらない
・否定も断定もしない
・「わからない」と言える雰囲気づくり
・わかったふりをしない
・お互いの顔色伺いをしない
・心の変容をゆるす
・考えが変わることもある
・（結果にとらわれず）対話を楽しむ
・違い（違う意見）を楽しむ

おとなのるーる

・焦って結論を出そうとしない
・評価をしない
（例）学生なのにすごいね！
→変な褒め言葉
・リアルな対話を楽しむ
・チャットで熱い議論を始めない

こどものるーる

・良い子のふりをして、
大人が求める答えを言おうとしない
・思考が整理されていなくても良い
・思考の途中経過でも話してみよう
・生徒や学生同士で変な壁をつくらない
（あの人はすごいから…など）

拡散と収束

創造的復興のアイデアを考えるにあたり、アイデアを拡散する時間と収束する時間を明確に分けました。それぞれのワークショップの目的に対して、参加者間で認識の相違と会話のズレが起きないよう、工夫をしました。

拡散する時間

くだらないこと・おもしろいこと・ちっぽけなこと、
どんなアイデアでも提案する

収束する時間

アイデアに対して建設的批判を何度も重ね、
より精度を上げていく

居場所の柔軟性｜Flexibility in Sense of Belonging

長期化する創造的復興の過程と向き合い続けるためには内発的な動機づけが欠かせないため、かつ、復興疲れを防ぐセルフケアのため、他者に与えられた目的ではなく自ら目的を見出す**余白の時間**や**あそびの時間**を十分に確保しました。

デトックスタイム

ワークショップの合間に「何もしない時間」を設定しました。寝る、瞑想する、遊ぶ、話すなど、自ら見つけたやりたいことをやる時間として、能登スクールそのものの目的や効率性からはあえて離れる時間としました。

あそびの時間

「居心地がいい空間」や「楽しい時間」を表す Hygge というデンマークの価値観を取り入れ、キャンプファイアーを行いました。フォークダンスやじゃんけん列車など、子どものころによくやった遊びを改めてやってみる、マシュマロを焼いて食べるなどすることで、全体の緊張を一気に和らげることができました。

ご当地お菓子持ち寄り

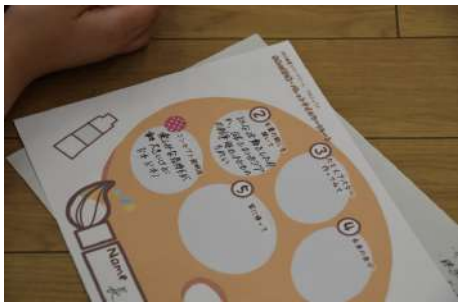
日本各地から参加者が集まったため、それぞれの出身地や居住地のお菓子を持ち寄りました。会話のきっかけや自己開示につながると同時に、ワークショップに疲れた際の休憩場所としても機能しました。

自分への理解と価値づけ｜Self-Understanding and Self-Worth

復興過程では、他者のための自己犠牲が頻発します。**自分軸を持つことで、自己肯定感・自己効用感が生まれ、他者にも思いやりを持って接することができる**ため、まずは自分が好きなこと・嫌いなこと、求めるもの・受け付けないものなど、自分自身を知ることで、自分だけの感性への気づきと価値づけを後押ししました。

パレットタイム

各ワークショップ終了後に振り返りを行いました。感想や気持ちを書き留めると同時に、多数のカラーシールの中からその時々に合う色を選び貼ることで、言葉以外の表現方法でも自分を見つめられる時間にしました。



例えアバターづくり
もしも自分が「海のいきもの」だったら&羽ばたけバルーン

自分を海の生き物に例えたら何になるかを会話しながら、カラービニール袋を使用し実際に作成。それを、体育館の床が埋まるほど大きくひとつにつなげた透明のビニール袋に貼り付け、膨らますことで、巨大バルーンが完成しました。中に入った後は、全員で空気を全て抜きたたむことで、「つくってはこわす」を繰り返す試行錯誤の体験の場としました。

違いの尊重｜Respect for Differences

多様な見方・考え方や、異なるバックグラウンドやアイデンティティを持つ人々を受け入れることで、相互の違いについて話し合い、見つめ、受容する機会をつくりました。

立場を超えるとは?トークフォークダンスで実践

中高生が内側に、大学生以上の大人が外側になるように大きな二重の円をつくって並び、出題されたトークテーマについて向かいの人に自己紹介をしながら回っていく、トークフォークダンスを行いました。大人と子どもが向き合い、それぞれの価値観を伝え感想を言い合うことで、立場を超えて理解し合う時間にしました。

トークテーマの例

1番忘れられない夏の思い出は?

言われて元気が出たのは誰のどんな言葉?

自分を色で表すと何色?それはなぜ?

自分のご機嫌をとる方法は?

自分を、とことん自画自賛して！など

他者への共感｜Empathy for Others

自分とは異なる立場の異なる経験に触れる時間を通して「もしも、○○が自分の身に起こったら？」と想像力を働かせ、それまで持ち得ていなかった視点に立ち、復興を**対岸の火事でなく当事者・共事者意識で捉え直す**ようにしました。

過去から今までの軌跡を尋ねる

東日本大震災経験者（当時中学生）の被災体験と、今日までどのように進路を決めてきたかを聞きました。また、参加者全員がそれぞれの自分軸を見つけるために、能登スクールにどのようなリターンを求めるかについて考えました。

リターンの例

ネットワークリターン
能登スクールを通して、どんな新しい仲間に出会えると嬉しい？

ナレッジリターン
能登スクールを通して、どんな知識が得られると嬉しい？

ハッピーリターン
能登スクールを通して、どういう楽しみを得られると嬉しい？

おさんぽワークショップ、輪島のいいところさがし＆知らなかったこと探し

これまでも「苦手な教科も好きになる！」をテーマに実施してきたお散歩ワークショップ。散歩しながら、目に写った光景を教科に落として話すことで、苦手教科と気軽に向き合える体験を目標にしています。今回は輪島高校教職員監督の元、輪島高校周辺を散歩しました。発災時のエピソードを聞きながら、被災地域に向き合う経験になりました。

苦手な教科も好きになるTips

散歩の中で目に写った光景に対し、

○○○は英語で何と言う？壁の高さを測定する方法は？

など、教科に絡めた問いを提示し、対話形式で解を見つけること

共創｜Co-Creation

創造的復興はひとりでは成し遂げられません。**丁寧な対話を通して、異なる意見や視点の長所・短所を建設的に批判・整理する**ことが重要です。意見は違えど人格は否定せず、課題解決に向けた最適解をみんなで見つけ出せるよう、**意思表明や合意形成**の場面をちりばめました。

「街プロ」プレゼン

「上から降りてきた復興計画にただ沿うのではなく、自分が住む地域の復興は自分で考える」をモットーに、輪島高校の探究活動の時間で実施されている街プロ。他県から集まった中高生と大人に、輪島高校生がそれぞれの街プロアイデアをプレゼンしフィードバックをもらい、アイデアの精度を上げるために何ができるかを、対話を通して考えました。

街プロアイデア（一部抜粋）

再建が困難になった商店街と朝市を、MIYASHITA PARK（東京都渋谷区）のような商店街・公園・朝市を組み合わせた商業施設として復活させられないか？

液状化を起こしバラスが撒かれたグラウンドで、恋が叶う石拾いイベントを開催し、参加者に楽しんでもらいながら、協力してグラウンドを復活させられないか？

共創｜Co-Creation

創造的復興はひとりでは成し遂げられません。**丁寧な対話を通して、異なる意見や視点の長所・短所を建設的に批判・整理する**ことが重要です。意見は違えど人格は否定せず、課題解決に向けた最適解をみんなで見つけ出せるよう、**意思表明や合意形成**の場面をちりばめました。

移動遊園地「壁のないあそび場-bA-」能登上陸

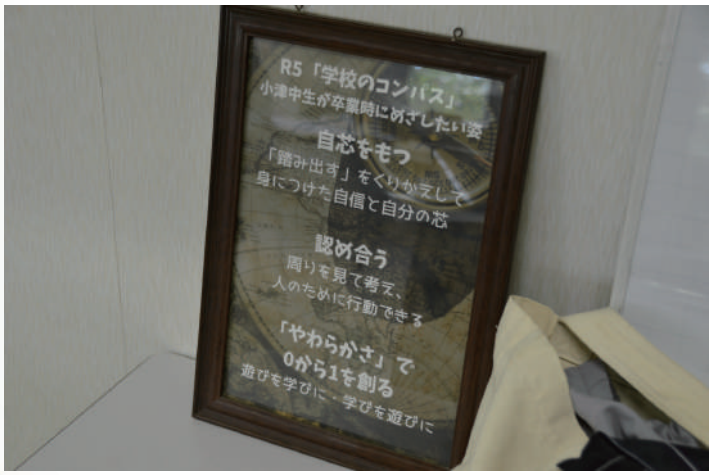
壁を超える未来の教育の実践を推進しているメンバーが、移動遊園地として複数のブースを開設。テーマごとに分かれて、新しい学校や学びを話し合いました。

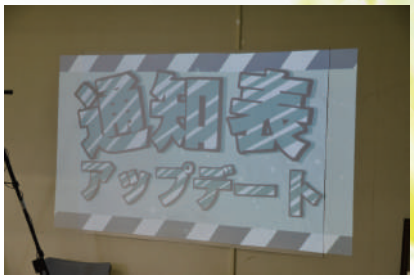
テーマ例

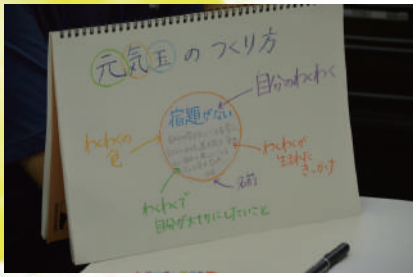
生徒主体で学校のコンパス（運営方針）をつくるためには？

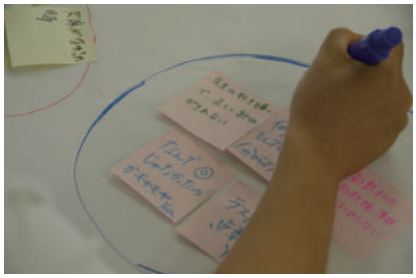
未来の学校にはどのような評価方法があるか？

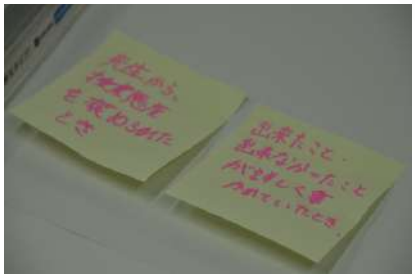
AIアバターを使用しどのような英語の授業ができるか？

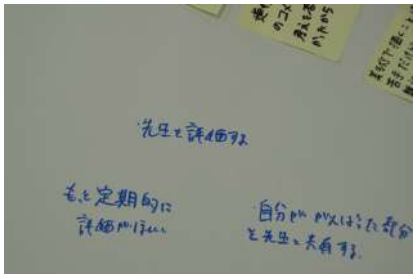


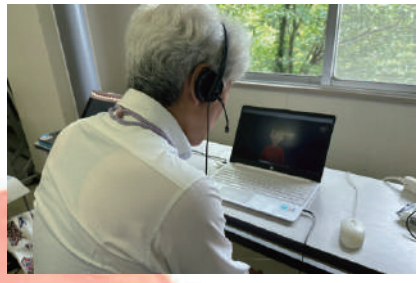












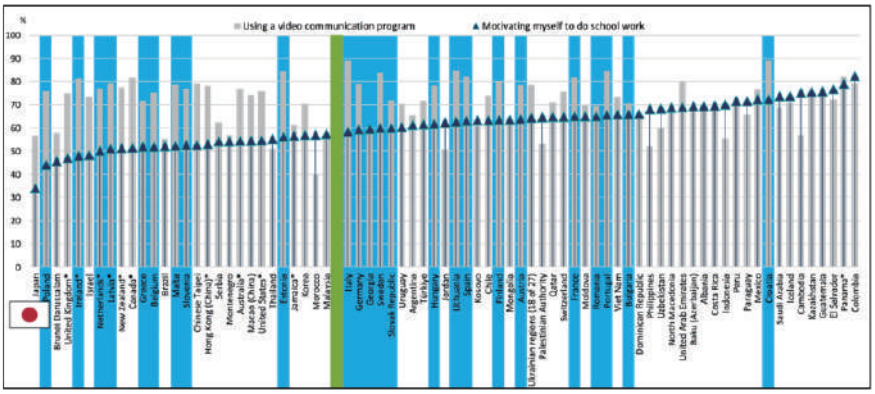
データに基づくプログラム設計（PISA2022より）

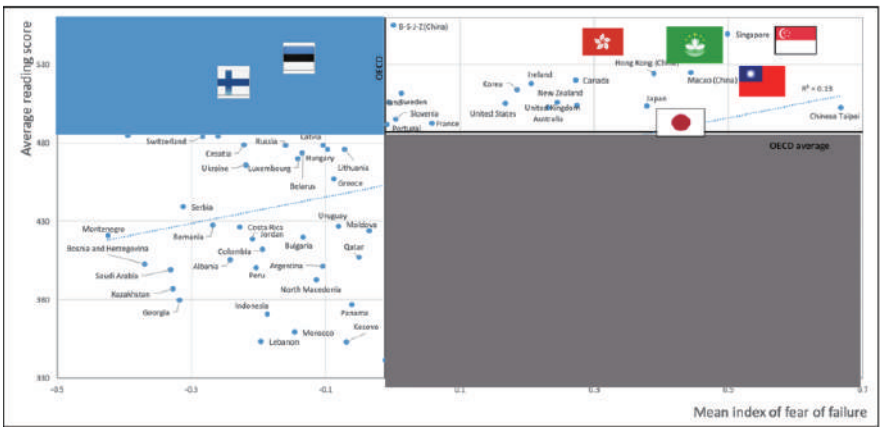
日本の強みを活かした、新たな未来の学びに向けて

日本の15歳を対象としたOECDのPISA調査（2022年）によると、日本の教育の強みとして、**全般的に高い学力や、コロナ禍における教育の回復力**が挙げられます。日本はパンデミックの渦中でも学校の閉鎖を最小限に抑え、**「学びを止めない」という教員の献身的な尽力や、生徒たちの努力**が世界から高く評価されています。

しかし、先生も生徒も「頑張りすぎる」傾向があるため、**ウェルビーイング（心身の健康や幸福感）に課題**が見られる点も指摘されています。そのため、能登スクールでは**心理的な安全と信頼**の確保を目指しました。

また、**Agency（主体性）や、Resilience（ストレス回復力）の課題**も示唆されています。例えば「自律的な学び」では、再び学校閉鎖が起きた場合、**「自ら勉強をするモチベーションを上げる自信がある・とてもある」と回答した生徒の割合は、OECD諸国の中で最低水準**でした。





能登スクールでは、新しい未来づくりの当事者として、他者から与えられた目的ではなく、自ら目的を見つける意識をつけ、行動し振り返る時間など、**主体性と居場所の柔軟性**を大切にしました。また、日本は2018年の調査で**Reading Score（読解力）で高い成績**を収めましたが、同時に、日本を含むアジアの国々（特に受験制度や厳しい評価システムが存在する国々）では**Fear of Failure（失敗を恐れる指数）が高い傾向**にあることが示されました。一方、エストニアやフィンランドでは、読解力が高い、かつ、OECD平均よりも失敗を恐れる指数が低い、という両立した例も見られています。

能登スクールでは、自己肯定感・自己効用感を持ち、失敗を恐れず挑戦したり、他者の評価に影響されない自分軸を探す**自分への理解と価値づけ**を、一貫して重視しました。同時に、**違いを尊重し他者への共感**を持つことも意識しています。個人の軸と他者との関わりの軸の2つをつなぐことで、まだ誰も見たことのない能登の新しい未来を**共創**するワクワクを肌で感じるプログラムを目指しました。

PISA とは、OECD（経済協力開発機構）が主催する国際的な学力調査で、世界各国の15歳の学生を対象に、3年ごとに行われます。この調査は、読解力、数学的リテラシー、および科学的リテラシーの3分野において、学生がどの程度の知識とスキルを持ち、それを実生活の文脈でどのように応用できるかを評価するものです。PISA の目的は、単に知識を評価するだけでなく、学生がその知識をどのように実世界の問題解決に活用できるかを測定することです。そのため、伝統的な学力テストとは異なり、学習した内容をどれだけ覚えているかではなく、状況に応じた思考力や応用力が重視されます。

学校って子どもだけのもの?

人生100年と言われる時代、ライフロングラーニングという考え方が広まり、学校を卒業すると同時に学びも終わるという考え方は一昔前のものになりつつあります。しかし今でも、教育カリキュラムや学校現場という言葉を聞くと、**学びの対象は子どもだけである**と、つい考えてしまいませんか?

事実は異なるかもしれません。能登スクールや、それ以前に展開してきたプロジェクトを通しての発見は、**プログラムやカリキュラムから学びを得るのは、子どもだけでなく大人も同じである**ということです。更に大人は、子どもが学ぶ姿勢や成長からも多くの刺激を得るため、子どもよりも大人の学びの方が何重にも大きくなることすらあります。

子どもの学びと大人の学びという異なる2本の平行線ではなく、**子どもと大人が混ざり合い、人と人とが相互に作用しながら共に学び合う**と考えることが、未来の学校を考える第一歩につながるかもしれません。

前述の7つのキーワードは、子どもと大人の意見を合わせて作成しました。
作成にあたり参考となった参加者の声を掲載いたします。

海の生き物に例える時間で自分の性格を再認識できた。

思い出ありすぎて。
全部が楽しすぎた。笑顔になれた。自分に納得いかなかったこともあったけれども…

大人はサポートするだけで全体的に成り立っていた。
生徒たちが自分を出していきいきしていた。

相手がいて自分が成立

手が回りきれていないと思っていたら、実はもう子どもが解決していたということがあった。

先生になりたいので、使命を持って、調査を兼ねて参加。輪島高校での先生方のマインドセット、衝撃と感動を受けた。口々に言っていたのが良かった。心のケア・復興を目指す。

身近な課題を見つけ意見交換するワークは現地に行かなければできないこと。

意思を持って自ら対話しようと行動していたことに感動した。これから求められる教育の形、あり方を見た気がした。

職業や年齢にとらわれずに話し合ったり、ひとりひとりが自己表現しているのがすごく印象的でした。こんな規模のイベントは初めてだったので緊張しましたが、行って良かったです。

昔は、大人と話すときは変に猫をかぶるような癖があったが、良い意味で自分らしくはっちゃけられていたのは、自分が成長した部分。

酒人を飲む

地震から274日目
豪雨から10日目

酒は百薬の長とも
命を削るカンナとも申します
陰気な酒はいけませんな
と落語のような出だしですが

人酒を飲む
最初のうちはおいしくいただいていますが
そのうち

酒酒を飲む
自分が欲しているわけでもないのに
おなかの酒が
次々招き入れるようにすすみ
やがて

酒人を飲む
自制心が効かなくなってしまいます
映画「千と千尋の神隠し」のカオナシ状態です

酒を飲むと人にからんだり
ダメになる人もいますが
実は酒が人をダメにするのではなくて
本来ダメな人が
酒によって正体が暴かれているにすぎません

同じような話で
コーヒーは胃に悪いとも聞きます
確かにコーヒーを飲むと胃が痛いことはありますが
これはコーヒーが悪いわけではなくて
胃が悪いときにコーヒーを飲むと痛むだけの話です
もともと潜在していた問題点が
コーヒーによって顕在化したにすぎません

これと同じことが今被災地の教育現場で起こっています
今被災地で起こっていることは
地震や水害だけのせいで起こっているのではなく
被災前から全国のあらゆるところで
くすぶっている問題です
たとえば教員不足の問題であったり
教育格差の問題であったり

生徒を見ていても
きちんとした学習習慣の確立していた生徒は
被災により環境が変わっても
自分のすべきことにきちんと取り組んでいます
大変だねと声かけしても
環境が悪いから勉強できないなどとは
一言も口にしません

学校では今
建物の基礎調査のための掘削が始まりました
騒音がうるさくて正直授業どころではありません
でも工事も進めなければならないし
生徒には集中力で頑張れと
精神論しか今は言えず
本当に申し訳ないです

だからといって
学校として
全てを生徒の自己責任にすることは
許される訳もなく
精一杯のことをやっていきます

まずは
地震や水害により
家庭での学習に支障をきたしているみなさん
休日の学校を学習場所として開放しています
昨日一昨日と何人かの生徒が登校し
学習に取り組んでいました

しかしこれなども教育格差のひとつです
都会なら学習塾や図書館があるけど
過疎地では学校がその役目もしなければならないこと
それに付随する教員の働き方に関する問題です

自己紹介

日本OECD共同研究は、**OECDラーニングコンパス**で提案されており、生徒たちがエージェンシーを最大限に発揮し、2030年の世界を豊かに生きていけるように、効果的なカリキュラムの設計・実施の探究について、日本とOECD（Education2030）が力を合わせて取り組んでいる活動です。

現在Education2030では、**OECDティーチングコンパス**を国際共創中です。
この新しいフレームワークづくりに、日本の皆さまと、参画・貢献することを目指しています。
その手法として、**壁のないあそび場-bA-**は日本各地で、**プロジェクト無限大**は世界各地で、
未来の教育のあたりまえの先取り実装を、展開しています。

2023年3月31日開催
日本OECD共同研究月間プレゼン資料より

壁のないあそび場-bA-とプロジェクト無限大が最重要視しているのは、
生徒と先生や、更にその周りを取り囲む大人たち自らが課題を見つけ、異なる視点を持ち寄り、対等な立場で解決策を共創することです。これらを、研究として見取り、日本の教育の再価値付けを行いながら、未来の教育政策の提言を生み出すために、「テーマ別ワーキンググループ」としての政策研究機能も強化しています。

スピリット

学校は、社会の縮図ではなく未来図

壁のないあそびbAとプロジェクト無限大は、
学校現場と教育政策を変えることは、未来そのものを形づくることと考えています。

学校は、単に現代社会を反映する縮図ではなく、これからの社会と未来そのものを形づくる道しるべ。
子どもの自主性を尊重し、子どもと大人が共に考え学ぶことが共創につながり
未来そのものの輪郭が明らかになると考えます。

このスピリットに共感する仲間が日本各地や世界各地に広がったことで、
より柔軟で臨機応変で包括的な新しい教育を追求することができるようになり、
そしてそれが、より豊かな未来の実現につながっていくと信じています。

能登半島に、
バルーンのような海が
戻りますように。

主催：東京学芸大学・経済協力開発機構（OECD）の共同開催

運営協力：東北大学

後援：石川県教育委員会・文部科学省・外務省・こども家庭庁

日本 OECD 共同研究事業へのご支援：株式会社 内田洋行・東京倶楽部 ・株式会社エキュメノポリス

能登スクールへのご支援：NPO フードバンク京都

今後の活動

2024年10月
AI英会話ツールをスタートアップ企業と共同開発開始（輪島高校）

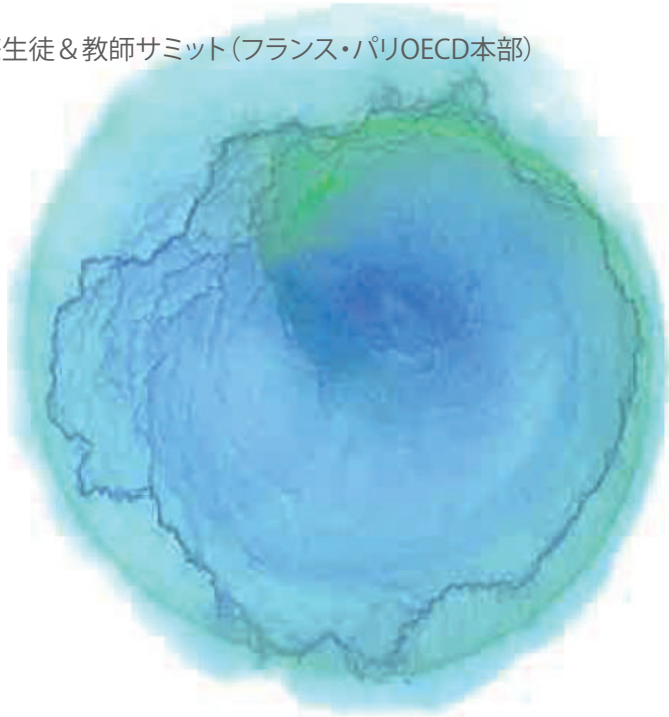
2024年10月
プロジェクト無限大｜トルコとの共創スタート

2024年11月5〜6日
カリキュラム分析・グローバルフォーラム（ポーランド）

2024年12月9〜11日
プロジェクト無限大｜学校のウェルビーイングについて国際生徒＆教師サミット（フランス・パリOECD本部）

2025年1月
能登追悼ワークショップ

2025年3月
東日本大震災追悼ワークショップ



ご協力・ご支援・ご参加に関するお問い合わせはこちらまで

東京学芸大学 日本OECD共同研究 国際共創プロジェクト運営事務局　collective@u-gakugei.ac.jp

「壁のないあそび場-bA-」プロジェクトサイト　https://gakugei-asobiba.org/

第1版（2024年10月作成）